

平成28年度 第2回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成28年7月7日(木) 午後2時から4時50分まで
- 2 会 場 中央図書館2階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：10名 傍聴人：なし
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、調査担当係長、サービス担当係長、資料担当係長、津田図書館長 計6名
- 4 配付資料 資料は省略させていただきます。

5 議事等

(1) 報告事項

① 図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)

(これまでの報告)

- ・5月14日～15日 「なかまちテラスまつり」の開催
公民館、図書館共催のもので、図書館としては図書館友の会と共催で、昨年度に引き続き「ビブリオバトル」を行った。2日間で2,889人の来場者があり、盛況だった。
- ・5月18日、25日、6月1日 「絵本の読み聞かせ実践講座」(中央図書館)
- ・6月4日 図書館友の会主催の講演会「小平市史の魅力を探る」(中央図書館)
- ・7月5日 学校図書館と図書館の連絡会議(中央図書館)
- ・6月、蔵書点検を3期に分けて実施した。詳細は別項目にて報告。
- ・その他、小学校3年生の図書館見学や中学生の職場体験には積極的に対応している。

(今後の予定)

- ・夏休みお勧め本のリストを作成し、市内の小・中学生には学校を通じて配布する。図書館では、これらの本を別置きして対応する。
- ・8月にインターンシップを例年通り受け入れる。研修プログラムを組んで、仕事のローテーションにも入ってもらうとともに、図書館のサービス・調査・資料などの各担当の事業、さらに地区図書館での実習も取り入れ、図書館事業全体を理解してもらう。
- ・「家族一日図書館員」「図書館バックヤード体験講座」「大人のためのおはなし会」「よるのおはなし会」等、例年通りを予定している。ただし「図書館バックヤード体験講座」については、小平市子ども読書活動推進計画において中学生・高校生に対するサービスの拡充に重点を置いていることから、今年は高校生を対象とした。
- ・7月28日、8月4日に「図書館が夏休みの宿題のお手伝いをします」ということで『子ども専用カウンター』開設をする。(中央図書館)

② 平成28年7月の職員人事異動について(資料No.1)

7月1日付けで、図書館は3名の人事異動あった。

③ 平成28年度の蔵書点検の結果について(資料No.3)

蔵書点検では、所蔵館が違う資料、配架場所の違う資料、不明となった資料等の確認を行う。1,224,546点の資料に対して1,355点の不明本が発生した。継続不明資料と合わせると3,033点となる（継続不明資料とはこの3年間の不明資料の総数）。不明資料の状態が3年続くと4年目に除籍としている。

仲町図書館ではICタグが付いてから初めての蔵書点検となった。効果がある程度検証できた。

④ 市議会6月定例会について

一般質問に関して、図書館に関するものとして2件。

- ・中江議員から「中央図書館での託児サービスの実施と一時預かり事業の拡充で子育て支援の充実を」の質問があった。図書館に関する部分について報告する。

「中央図書館で託児サービスを提供することにより、市民にどのようなメリットがあると認識しているか」の質問に対して、「託児サービスを提供することにより、子育て中の保護者が、落ち着いて図書館を利用できるという効果が期待される」と答弁した。

「まずは、中央図書館で託児サービスを実施すべきと考えるが、市の見解は」の質問に対して、「図書館利用における託児サービスは、事業効果を高める観点から必要に応じて提供すべきサービスであると認識しており、絵本の読み聞かせ実践講座や、大人のためのおはなし会などの事業では、保護者が安心して参加していただけるよう、託児付きで実施している。さらに、昨年度は、図書館開館40周年記念事業の一つとして、小平市子ども文庫連絡協議会との協働で「図書館親子スペシャルデー 小さな子どものいる親子を休館日にご招待します」を実施した。子育て中の保護者に、大人だけの時間や親子の時間をゆっくり過ごしてもらうことを目的に、大人のための読み聞かせの会、本の探し方の案内、自由時間などのプログラムを、託児サービスを付けて提供したもので、継続して実施することを検討している。今後も、このような取組を通して、子どもの読書活動の推進、及び子育て支援の視点を踏まえた事業の充実を図っていく。」と答弁した。

「中央図書館で子どもが原因の苦情を受けたことはあるか」の質問に対して、「日頃から様々なご意見をお寄せいただいているが、子どもが原因のものは、過去3年間で1件。内容としては、おはなし会が終了した後に大声で走り回っているので注意してほしいというもの。」と答弁した。

- ・竹井議員から「なかまちテラスをもっと観光資源として生かしていこう」の質問があった。図書館に関する部分について報告する。

「この1年間で観光や視察でなかまちテラスを訪れた方の数は」の質問に対して、「視察で訪れた方は、国内から29団体380人。海外から4団体73人。合計で33団体、453人となっている」と答弁した。

「海外からの観光客はどのような行程でなかまちテラスを訪れていると市は考えているのか」の質問に対して、「なかまちテラスは、著名な建築家である妹島和世氏の設計であることから、雑誌、インターネット、最近ではNHKの海外向けの番組で放送されるなど、メディアに取り上げられており、そうしたことが、訪れるきっかけとなっているものと考えている。また、台湾の旅行会社が企画した日本の有名な建築をまわるツアーに参加して訪れる方が多く見受けられる」と答弁した。

「建築観光の客に対して市やなかまちテラスはどのように資料や情報の提供を行っているか」の質問に対して、「なかまちテラスでは、図書館に妹島氏の関連書を集めたコーナーを設置しているほか、地下1階の公民館部分に、妹島氏がこれまで手掛けた建物のパネルを展示している。また、(株)妹島 和世建築設計事務所との協働により、建物に関するパンフレットを作成し、本年4月1日から販売を始めた。建物の詳細な平面図を記載してあることなどから、利用者や視察の方に好評であり、すでに概ね100部が販売されている。」と答弁した。

⑤ 平成27年度1年間に利用者等からいただいた意見・要望について(資料No.4)

年間合計で87件(毎年100件強)である。種類では、図書館に備えてある用紙「私の意見」が多かった。差出人の氏名・住所が記載されているものには回答をし、無記名のものについては参考とさせていただいている。

内容は資料に記載してあるとおり。大まかに内容を分類すると、図書館の蔵書の充実、寄贈について、貸出、リクエストについての要望が多い。いずれも貴重なご意見と受け止め、改善できうるものは実施していく。

⑥ その他

蔵書点検中、中央図書館では1階開架フロアを工事し、北側の壁に据え付けてある書架を撤去した。机と12脚の椅子を置いた。昨年度、Wi-Fiを導入したこと、読書スペースを設ける図書館も近年増えていることなどから設置したもので、席はおおむね利用されている。

昨年度実施した図書館開館40周年記念事業についてとりまとめたので報告する。平成27年度は小平市立図書館が昭和50年5月18日に開館して40周年にあたり、これまでを振り返り、これからの図書館サービスについて考えるため、小平市子ども文庫連絡協議会、小平図書館友の会、武蔵野美術大学の協力をいただき様々な周年事業を企画、実施した(全部で17の事業)。展示などカウントできないものを除くと1,010人の参加があった。実施した事業について、評判の良かったものは、今年度継続することを検討している。

(報告事項に関する質疑・応答)

委員：40周年記念事業の福袋について概して好評ではあるけれど、一部の人には、図書館で借りている10冊の中にカウントされてしまうので、自分の借りる本は自分で選びたいという気持ちから諦めるという声もあった。

事務局：アンケートをとり、その中ではそのような意見はあまり出ていなかった。ただ、冊数的には3~4冊くらいが一番良いのではないかという意見はあった。

委員：議会での質問で、託児サービスについて、この時点で出てきたのには何か背景があるのか。

事務局：この4月から青梅市が指定管理者制度を導入し、託児サービスを取り入れているというような経緯がある。小平も講演会など必要に応じて託児サービスをしているところである。

委員：高コストなサービスなので、利用については打ち上げ花火みたいなのに惑わされないでいただきたい。

副会長：福袋だが、本を貸出本としてカウントしたら、福袋にならないのではないか。別にしないと。ただ数が多いだけでは、あまり意味がないのではないか。

事務局：意味がないというのは考え方にもよると思うが、今回は10冊の中で行った。テーマに沿って集めてみたり、読んだことのないような本を集めてみたり。先ほどのアンケートの中でも、そ

のような意見はなかったところである。今後、継続していくかどうか検討していきたい。

副会長：報告を聞いていて面白かったのは、なかまちテラスを図書館として見に来ているのではなく、建物として見に来ている人が多かったということ。そこはちょっとおかしいのではないか。図書館として見に来てほしい。

事務局：図書館であるので、きっかけはともあれ、大切なのは本であるから、そういう意味では中身が伴っていないといけないというのは、おっしゃるとおりだと思うので、工夫していきたい。

委員：市長への手紙の中で、本が古いという意見がトップにあったが、これは意味が深いと思う。どのように考えるか。

事務局：本の買い替えについて、ひとつ言えることは、資料購入費が下がってきているということ。一番多いのは80年代、90年代の本で、その時の本を一気に閉架にすることもできない。配架の状況を見ると、そういう印象をもたれてしまうかも知れない。本をどう廃棄していくかという問題も含めて、今後は本をどのように配置するか、本の見せ方の工夫を考えないといけないと思っている。

委員：80年代から90年代というのは、中央図書館ができて地区館も増えてきて、バブル景気と連動している。バブルが崩壊して、図書館費もどんどん減ってきたようだ。やはり本を貸していかないと魅力ある図書館ということにはならないのではないかと。新しい本を入れれば大丈夫という問題ではないが、バランスが難しい。

事務局：図書館費はそんなに変わっていないが、図書購入費が下がってきている。その中で選書や本の見せ方などを工夫していかなければならないと考えている。

副会長：仲町図書館の開架書架には魅力が無いと思う。実用書が多くなってしまっている。実用書が悪いとは言わないが、そればかりになってしまうと魅力が無くなってしまおうと思う。最終的には選書の問題になってくると思うが、予算が減っているからどういう本を買えばいいのかというとき、実用書が一番優先的に買うべき本ではないと思う。

事務局：様々な方が利用するわけだから、実用書を借りていく人もいて、そのような方々に対して図書館は開かれていなくてはならないと思う。そのようなこともあわせて、どのように本を収集していくかは大事な問題であると考えている。実用書だから買いませんとそこまで割り切れるものではない。

委員：利用者の結構な割合がウェブで本を予約して窓口で受け取って帰ってしまうような現在、書架の作り方について、今の状況にあった作り方があるのではないかと。なかまちテラスは、図書館にしては本数が少ないような気がする。利用者からは「以前の仲町図書館の方がいろいろな本があった」という声も聞いた。地区館の分担収集のあり方も考えるべきではないか。書架を作る、書架を見せるような工夫ができるよう考え方を考えてもいいのでは。予算の話が出たが、図書購入費が下がっているという状況の中、本の買い方について、リクエストのあった本を新古書店で買うという方法はどうか。

事務局：古書店は、小平市では図書館を開設する際に郷土資料を買うという意味合いで使っていた経緯はある。新古書店を使用するというのは、産業振興の観点から言うと、市内の書店を圧迫するという考え方もある。小平書店組合という関係ではそういう意味での難しさはある。

委員：同じ予算で調達できる本数が倍になる手段がある場合、一部の団体の利益を圧迫しないよという論理がどこまで通用するのか。もし、小平市民にとって、倍の本が入手できるので

あれば、それはそれで良いことかも知れない。ただし、それを全国の図書館でやってしまったら、大きな問題になってしまうが。でも、一部の公共図書館ではやっている。

委員：それは公共図書館がやるべきことではないのではないか。

副会長：古書だけれど、新古書ばかりでなく、絶版になって買えない本でも絶対必要である本というのがある。そういう本は古書で購入していくべきで、考えていかないといけない。

事務局：昨年、レファレンス研修をやる中で、講師の方に参考室を見てもらって、これとこれはあった方がよいというような指導をいただいた。後は国会の電子送信サービスがここで始まって実際に進んでいるが、そういうものを利用できないかということを考えている。

委員：多摩地区の大学図書館との連携はどうか？

事務局：嘉悦大学は地域に開放している大学である。大学の地域連携とか地域貢献というものも考慮しながら、地域連携という目的を持っているが、相互貸借をするということはなかなか合意を目指すのが難しい。

会長：継続本の見直しについて、雑誌などは何年かに1回はやらないと、予算の中で雑誌など継続本などがどれくらいの割合を占めているのか。半分位を占めているようだ大変である。

事務局：予算的に雑誌と単行本は違うものなので、その中で分けている。文庫も購入している。全集も買いたい予算的に難しくなっている。

副会長：全集の扱いについてだが置く場所もなくなっている。CD-ROMにも入っている。だから、全集などはどこの図書館にもあるから、あまり買わなくても良いのではないかと考えるもある。

委員：全集か文庫本かという選択もあるが、文庫本で全集を揃えるというのもあっていいのではないか。

事務局：主要な文庫本は基本的にはほとんど購入している。文庫といえども品切れということがあり、後から買えなくなるということが起きる。

会長：図書館の予算というものが減らされていると言われているが、小平市の場合、諸経費そのものは割りと維持してもらっているのはありがたい。

事務局：予算できつなのは、消費税は上がっていること。消費税と込みでと言われると辛い。そこは別々に計算させてもらわないと、実質が下がってしまう。

委員：小平は図書費というのは確かにそんなに下がってはいない。ギリギリのところまで維持している。しかし、現状維持でなく、そこを上げないといけないのではないか。

事務局：図書費についても他の図書館と比較するよりも、市全体の財政状況を鑑みて判断する。今後はさらに厳しい状況となってくることも考えられる。

委員：予算について、小平市はこの規模の自治体としてはかなり頑張って維持していると思う。ただ、魅力ある書架を作っているかどうかは議論のあるところ。他のところの学校図書館で、予算は少なくとも魅力ある書架を作っているところがある。規模が小さくて目が行き届く、フィードバックがしやすい。試行錯誤がしやすいのである。

事務局：府中市は、職員が選書には参加しているが配架はしない。そうすると、今どんな本が人気あるのか分からない。だから、配架作業なり、カウンターでどんな本が動いているかを知ること、そのような経験は大事なことであると思う。

副会長：博物館や美術館は学芸員が選定もするし、展示までする。やはり、そういうことやらない

とだめだと思う。

会 長：仲町図書館がこれほど見学者が多い中で、図書館としての魅力をどう上げていくか。妹島さんの名前だけで言うと、どうしても建築に目が行ってしまう。図書館と公民館を合築した意味は何なのかということをもう一度考える必要がある。

委 員：「よるのおはなし会」で、花小金井図書館は昨年もなかったように記憶しているが、何か理由でもあるのか。

事務局：本当は全館でやりたいのだが、実施できる範囲でというのが現状である。

委 員：「あおぞらおはなし会」「ぬいぐるみのおとまり会」の対象年齢は。

事務局：「あおぞらおはなし会」は、通常のおはなし会の対象年齢と同じ。「ぬいぐるみのおとまり会」は、小学校低学年くらいまでの小さい子を対象とした。対象年齢は設定していないが大きな子はいなかった。

委 員：夏休みのおすすめ本について、幼稚園や保育園に通う未就学児の親に対して、図書館職員が選んでくれた本のリストだけでももらえると良いのだが。

事務局：現在は、3・4カ月児の健康診断のときに絵本の紹介している。その他、小学生に夏休みのおすすめ本を紹介している。その間を埋めるようなことはできていない。難しいところである。

委 員：昔はパンフレットの類が多かったが、今は児童関係の図書館が自分のところでリストを作りウェブ等で公開している。インターネットを使って検索すると、おすすめ本の図書リストというものが分かる。子どもたちに読ませたい基本リストというのは、どこがオリジナルかを問うつもりがなければ、スマホなどで調べればすぐに見つけられる。おすすめ本のリストの作成を市町村に求めなくとも調べられるようになってきている。

会 長：子どもの興味というものはそれぞれ違うので、一般のお母さんでも、読ませたい本を調べることはできるのではいか。ウェブを利用することで、一般のお母さん方でもどのような本を読ませたら良いのかは調べやすいのではないか。

委 員：本の展示について言えば、国会図書館ではデジタル化配信サービスが始まっている。例えば、国会図書館にはない本を小平市がそろえていくような仕組みなどを考えたら面白いのではないか。廃棄の前に調べて、国会図書館にない本であれば廃棄を止める。そのような本が100冊くらい集まったら、国会図書館にない本ということで展示することもできる。そうすると、魅力的な展示になるのではないか。

事務局：過去5年間一度も借りられていない本の展示をした市も最近はあると聞いている。

副会長：福袋というのはもらわない理由があるのか。福袋の10冊を自分で選べればいいのだが。

委 員：利用者の方に参加していただいて、写真を撮らしてもらって「私が選びました」というようにやれると良いのでは。

事務局：2、3年前に、利用者の方におすすめの本を記入してもらい展示したことがあった。

副会長：図書館協議会委員が選んだ10冊なんていうのも面白い。

副会長：雑誌の話であるが、雑誌は毎年出るのでどうしても増えてしまう。私の学校でずいぶんとでたらめな選書が行われていた。選書というのは一度やってしまうと取り返しのつかないことになってしまう。慎重に行わないといけない。

委 員：雑誌は3年経つとリサイクルとして回しているが、雑誌には別冊本があったり、臨時増刊本があったりなど、実際には単行本的に出ているものがあり、このような部数の少ないものは残

してもらえるとありがたい。

事務局：そこまで細やかな資料保存をするというのがなかなか難しい状況である。雑誌で言うと、他市では増刊本等を購入していないところもあるが、小平市では購入している。

委員：学校の状況について、説明させていただく。私どもの学校の教職員は勉強熱心ではあるが、一度も図書館に行っていないと思われる。現場では本当にリストが多く、教員に余裕がない。低学年は本を読むが、一番本を読むべき中学年の時期に、しっかり本を読む時間がなくこちら側で仕掛けをしないといけない。そんな中、わが校では図書館協力員が一生懸命やっていたらいい。

副会長：学校図書館に専門の司書がいるかいないかには大きな違いがある。例えば、司書が常駐している図書館の蔵書構成や出入りする学生なども変わってくる。蔵書構成や配架等の問題で、1人の専門司書がいるだけで、その人の差配でいろいろと動いていけると思う。以前から申しあげているが、専門の司書について小平市も考えなければならないと思う。

委員：40周年事業はこれで終わるのか。継続するのか。

事務局：40周年事業はこれで終わる。ただし、ご意見等も考慮し、継続してできるものは検討する。

委員：個人的に中央図書館の推薦本の書架にはよく足を運んでいるが、もう少しあるといいのかなと感じる。推薦本の書架というのは各館にも大なり小なりあるのか。

事務局：展示及び推薦本などは、各館にありそれぞれにまかせてある。

委員：少しコメントがあると、それが並んでいるところに行きやすくなる。

市長への手紙で改善された内容を知る方法はどうすれば良いのか。

事務局：先ほど申し上げたとおりで、氏名・連絡先の書いてあるものについては回答などし対応している。

委員：インターネットで本の購入希望などはできないか。

事務局：図書館の購入本については選書基準に合わせるので、全ての希望が叶えられるものではない。

(2) 協議事項

特になし